

「私の第一声⑳」

【行事の思い出① 体育大会② 全体演技】

私が教員として貝塚に赴任して感心したのが、生徒会の委員会や、各行事それぞれの「実行委員会」により、生徒が主体的に行事に関わっている姿と、先輩が後輩に伝統を伝えていく「縦割り」というシステムが位置づいていることでした。自分自身の中学生時代は、各行事を担当する生徒はいても、形だけだった印象でしたし、部活動以外で直接先輩から何かを教えてもらった実感もなかったのです。

体育大会で特に感心したのは、男子の全体演技「エッサッサ」と女子の学年演技「創作ダンス」でした。「エッサッサ」は、日本体育大学発祥の応援演技です。45年前に日体大出身の体育教員が、まずは学年演技としてやり始め、それが学校全体の取組みになったそうです。それから、貝塚の他の中学校にも広がっていきました。

初めて「エッサッサ」を見た時は衝撃でした。上半身裸、素足で運動場いっぱいになり、演技する姿に圧倒されました。練習の始まりは、体育委員と実行委員の気持ちづくりでした。日体大や、先輩のエッサッサをビデオで観て、今年はどんな表現にするのかを考えます。3年生が演技内容を決定し、まずは学年の中で固めていき、それをクラスの縦割り（3年1組が2年1組・1年1組に教えるなど）で後輩に伝えていく様子が素晴らしかったです。自分がきちんと内容を理解していなければ、後輩に教えることができません。3年生は自分が学ぶ時から真剣です。教える時の接し方を見て、後輩は自分たちもそういう先輩になりたいと考えるのです。

「創作ダンス」も素晴らしかったです。体育委員と実行委員で夏休み前から集まって学年ごと、クラスごとに創作し、夏休みから2学期にかけてみんなで共有します。後輩は昨年先輩の演技を超えようと頑張ります。時には悩んでいる後輩に先輩が声をかけ、相談にのり、励ましている場面もありました。みんなで体育大会を成功させるんだ！ そんな思いが溢れていました。

体育大会当日、生徒たちは、保護者や、楽しみに観にいらっしゃる地域のお年寄りに精一杯の演技を披露し、終わった後の拍手に何人も

の生徒が感動の涙を流していました。

今年、久しぶりに行うことができた三中の入場行進。3年生は、最初で最後の行進でしたが、見事にやりきりました。その姿を見て、後輩がそれに追いつき越えようとする中で、レベルが上がり内容が充実します。それがその学校の「伝統」となっていくのです。コロナ禍の中でも「生徒が主体的に行動する」姿を体現していたと思います。

学校文化の継承についても、コロナ禍をきっかけに新たな内容や方法、工夫を考えるべき時期になったと感じています。実は、男女別に団体演技をしていることについても、何年も前から、議論をしてきました。団体演技を男女別にする必要はないのです。でも、一緒にしようと思っても、例えばエッサッサは、上半身裸になります。これでは参加したくても女子には参加できません。そう考えた時、新たに気づくことができました。裸になることは、5%程度の生徒が性的マイノリティの可能性があるとされている中、十分な配慮ができない内容です。昨年度、二中のエッサッサで上半身裸になるか体操服を着るかを生徒1人ひとりが選べるようにすると、7割近くの男子生徒が着衣を選んだとききました。男子でも裸を嫌がっている生徒が多いのです。

今年の三中の体育大会で、男女一緒にダンスを楽しく踊る姿は、観客の感動を呼び、特に3年男子が2人組で堂々とハートをつくる演技の可愛らしさに、観客席の保護者から歓声があがりました。生徒は一人ひとり、いろいろな個性を持っています。特に全体演技については、男女や障がいなどを含め、生徒の在り方に対する思い込みをなくし、三中生全員が、それぞれの個性を活かしながら楽しく表現できる、そんな新たな伝統づくりにチャレンジしていくことの大切さと、その可能性を、生徒の姿から感じています。

私たち教員自身が、考え方や知識、感性をアップデートし、子どもの姿から学び、新たな時代にふさわしい取組みをつくっていくことが、生徒1人ひとりを大切に作る学校づくりに必要だと感じています。

【不定期コラムNo.38】へつづく

第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP

貝塚第三中学校HP